

刊夕日七十二月八



定価 一部五銭 全五拾銭 郵費五銭
廣告料 五拾二字 行金五拾銭
日曜祭日の翌日休刊
発行所 東京市本町一丁目 朝日新聞社
電話 六三〇
印刷所 東京市本町一丁目 朝日新聞社

北満より一筆

前平刑務所長
濱江盛秋在任
本庄吉助

【二】

此外に届出でない露人満人などの家に寄宿して調査洩れの者が四五千人はある見込のことからハルビンに居住する邦人人口四萬二千七百人に近いことなる。邦人の職業別を示せば邦人人口の内でも多いのは會社商店其他に勤務するサラリーマンである。之れに次いで滿洲國官更及陸海軍人、鐵道、土木干係の者が多く、其他は種々雑多な職業に従事してゐる、又一昨年渡來した天理教農村民及從來から阿什河流域で農業に従事してゐた邦人農民男二百十四名、女二百六十

二人も大ハルビン特別市の實施に依つてハルビン市民に加はつてゐる邦人留民を職業別にすると約四十餘種數となつてゐることである。會社、商店、旅館等相當大資本を投じて事業を営んでゐる者の外には可なり突飛的な職業に従事してゐる者もあつて、木竹、皮革、羽毛等細工業と云ふのや傘や提灯の製造をして外人を常得意としてゐる者などもある他の都市に比してハルビンが少い様だが自由労働者なども北鐵接收後相當入り込

ノート
金貨は金九〇、銅一〇の割合で鑄造される。銀貨は銀七二、銅二八。白銅は銅七五、ニッケル二五。銅貨は銅九五、錫四、亜鉛一

二人も大ハルビン特別市の實施に依つてハルビン市民に加はつてゐる邦人留民を職業別にすると約四十餘

閉鎖か讓渡か合辦維持か窮狀打開に苦慮中の事です。北鐵接收とこれに伴ふ蘇聯従業員引揚げに依り在哈露商の閉鎖店は既に約百軒を突破する有様であるとのことで、この外幸ふじて營業繼續中のキタイスカヤ街筋及秋林馬家溝等の露人經營の各商店では目下引揚げ景氣一段落と夏枯れに因り未曾有の不況に喘ぎつゝこのまゝで行けば遠からず自滅の外ないのでいづれもこの窮狀打開のため苦慮してゐる模様で、總體的に見て閉店及び讓渡希望者六割、店舗經營希望者四割と見られてゐるが右露商店は大體に於て左の如き動向を辿るものと見られてゐる。

一、店舗閉鎖又は讓渡せんとするもの、これは前途に對し判然たる見切りをつけてゐるもので購買力なき白露天相手に商賣して缺損を續くるよりも此際店舗を閉鎖、手持ち商品を處分せんとするもの、又讓渡希望者は店舗及商品を現金に替へ北平又は上海方面に轉住せんとするものであるが喰ひ込み一方とは言へ、引揚景氣に依る潤ひで未だ餘力を持つてゐるので彼等の言ひ値は頗る高く目下の處買手側（邦人）と折合ひつかぬ状態の由のことです。

一、店舗閉鎖又は讓渡せんとするもの、これは前途に對し判然たる見切りをつけてゐるもので購買力なき白露天相手に商賣して缺損を續くるよりも此際店舗を閉鎖、手持ち商品を處分せんとするもの、又讓渡希望者は店舗及商品を現金に替へ北平又は上海方面に轉住せんとするものであるが喰ひ込み一方とは言へ、引揚景氣に依る潤ひで未だ餘力を持つてゐるので彼等の言ひ値は頗る高く目下の處買手側（邦人）と折合ひつかぬ状態の由のことです。

コロンビヤ 新製蓄音器
ポータブル 金貳十五圓
レコードは
コロンビヤの平益踊り
其他新譜澤山あります
平町五丁目（電一九五番）
金光堂時計店

池坊盛花 華道會員募集
一々卒業 花型構成ノ原則ヲ解放
初心者ヲ標準トシテ華道ニ關スル理論及技術ノ大要ヲ確實ニ習得セシム
科目 華道應用盛花、投入、生花、立華
教授場 性源寺 平町長橋町午前九時
時期 毎週金曜 平出張事務所 平町田町午後一時ヨリ夜間部アリ
講師 池坊華道會長 先崎翠峰先生
申込其他 御用ノ際ハ電話五二六番
（出張事務所 味岡子之松氏方）御利用下サイ
◎尙御希望ニ應ジ出張教授モ致シマス
主催 池坊華道會

耳鼻咽喉科専門
大和田醫院
平町南町一六（電話一七〇番）

増車御披露
陸の王者として定評ある流線型ダツチ
ブラザース二輪増車致しました。タク
シーの御使用の際は新車揃の尼子タク
シーに御用命を御待致して居ります。
大型貸切専門車も御座います。
尼子タクシー
電話六四〇〇

頭痛て不快の方
フタバの磁器
平町中町（電一九三番）

開院廣告
今般左記ノ場所へ齒科醫院開設シ去ル六月
廿五日ヨリ齒科一般診療ノ需ニ應ズ
診療時間 午前八時ヨリ
午後九時マデ
場所 平町北白銀町機關庫裏
東條齒科醫院
日本大學 齒科醫學士 東條守義

自轉車は左記
有名車を御撰擇下さい
世界的ニ進出セル
宮田ノ自轉車
夙ニ堅牢輕快ノ定評アル
ゼブラノ自轉車
實用經濟車トシテ好評アル
◎マーツ號自轉車
◎マーツ號の好評をねたみ羊頭狗肉の策を用ひ偽物を販賣なし商權を侵害なしつゝある者あり法的解決により御得意様の御了解を得ん
宮田代理店 エビスヤ商店
ゼブラ代理店
マーツ代理店
電話六六四

喜多流謠曲と仕舞の
お稽古を奨め致します
喜多流 謠曲 仕舞 白土會
平町田町六九
電話一二七番

他人の懷中を

堀る鑛山師

後藤鑛山監督局長が
その所見を披瀝

昨日の河北新報夕刊「河北春秋」に仙臺鑛山監督局長後藤保清氏が「他人の懷中を堀る鑛山師」と題してその所見を掲載されてある、後藤局長は平町の地下採掘に最後の鍵を握り、同問題のよりよき解決に多大の關心を寄せらるゝ人、いま茲に全文を掲載して、同氏の鑛山業に對する管見を知る一端に資したい、熟讀玩味せられたし……。

人の弱点につけ込む悪山師連の狡詐もさることながら、うま／＼とその術中に陥る投資家の無智と輕卒とは唯愁傷の至りとばかりいつて居られぬ世相である、その間においての國家資源の荒廢損耗と世道人道の惑亂汚毒を一体どうしてこれと全く諦めきれぬ義憤をさへ感ずる。

秋の味覺に

王座を占める

梨の早生種姿を現す

みである

石城産の水桃も漸く出廻り終了となりいよいよ秋の味覺の王座を占める梨の出廻りを迎へる事となつたが早生種は小粒ながら早くも關屋方面に姿を現してゐる都會では今年も發育も天候に恵まれて頗るよく味も又格別と見られるから中央方面に出荷しても相當の聲價を納めるだらうと語つてゐるが相場は目下のところ中生種以下のもので二十五割見當で昨年と大差ない見

圖書教育

講習會開始

圖書教育研究會石城支部主催第一回小學圖書指導講習會は來る廿九日より二日間平第一小學校講堂に開催されるが講師は磐中近藤廣記教諭でクレオン、マルセル水彩等小學圖書材料を使用し實技並びに講演等ある筈一般希望者の参加も差支ない

依つて現實に多大の利潤を獲得するといふ誠に粗笨な企業觀念が横たはつてゐるこの点、ナジモフやスワロフの沈澱金塊の引上事業に一世を昂奮の坩堝に投げこんだのと正に同巧異曲の感なき能はず、尤も鑛山事業なるものが元來工業等と異なり自己の鑛床を採掘する以外には原料選擇の自由が著しく局限せられこれに最も適合した施設を以つて經營するわけであるから、事業成功の重大なる鍵はこの先天的條件に依存する運命に立脚することは當然である、従つて元々價値のない山や價値判斷をあやまつた過大な評價や乃至鑛床自体に不適當な施設に依る經營は當然の歸結として事業の失敗を招來する然しよし假

りに折角好條件に恵まれたとしてもいざ實行となると拗こい鑛毒賠償問題やら深刻な勞働問題に悩まされ考へて見ると相當ウンザリさせられる、況んや鑛山金融とくると現在では殆んどその途が拓かれなないと云つてもよい、従つて山師連中が山を堀る前に先づ鴨連中の懷中から堀つてかゝらねばならぬのは必ずしも愆と二人伴ればばかりとは云へず、實際背に腹は替へられぬ苦衷の存するであらうことも想像されないうもな

正權兩道がある。早い話が何んといつてもこの所産金でしこたま儲けて收まつてゐるのは日本鑛業、住友、三井、三菱、古河といつた巨豪連であらう。而もこれ等が決して山師連でないことは公平な世間が認める、それといふのも眞面目に巨額の目には見えぬ採掘費、買鑛費を投じて鑛石自体を確保すると共に、その拮据經營に人知れぬ苦心と犠牲を拂つた賜ものであるこれらを目して單に「長袖能く舞ふ」とのみ羨望し去るには餘りに多くの教訓と示唆を提示してゐる。大は大方なりには小は小なりに經營の眞剣さが山の生命として吹き込まれてゐるのでなくてはならぬ。唯多くの場合は一旦志を鑛山業に立て、見

ツト虫が

發生した

徹底的驅除を

農試分場警告

最近郡下各地の稲に苞虫が盛んに發生します。蔓延するおそれがありこの被害が相當甚大なので一般農民は何れも悲鳴をあげてゐるがこの驅除法としては稲の葉に巢を作つて密着してゐる苞虫を櫛を以てすき上げるとより外に途がなくこの手数が又大變なので殆ど困り抜いてゐるしかしこの驅除を怠ると苞虫は稲からかやに移つて冬を越し來年又々稲に産卵繁殖するので被害

考へて見れば鑛山業なるものは案外厄介なものだといふ事になる。しかし正直な所鑛山事業は相當ポロク儲かるらしい。唯儲け方の少ない徹底的に驅除するやう神谷村農事試驗分場では警告を發することになつた

たもの、採鑛、選鑛、製練と數々の行程に盛られた技術上經濟上の難關に達着して、一も二もなく正道を回避して要領よく間道を漁らんとする不心得に陥る。これが惑亂と没落への一途を辿る契機となる。

水利權の調査

縣土

木課電氣係黒岩技師、國分

技手の兩氏は本廿七日來平

小玉川、鮫川各上流に工事

中の水力發電所の水利權に

就いて視察した

小名濱町に九月二日より三日間開催される第七回關東北水産大會には既記の如く農林大臣代理として原水産局長、伊谷大日本水産會會長、伊藤本縣知事以下三百名が參會するが同町では昨廿六日水産大會の協賛會役員を左の如く決定した

葉縣坂本欽一郎 村上保一郎 △茨城縣村上真太郎 鈴木隆夫 △福島縣黒澤島雄 小野己木雄 △宮城縣長瀬國三郎 鈴木貴雄 △岩手縣柳田準平 馬上達藏 △青森縣齊藤昇一 丹野寛平

水産大會の準備

協賛會役員決定

平局が敗戦

既報去

る廿五日郡山市に開催され

た縣下一二等局野球大會に

出場する平郵便局チームは一

回戦で若松局に四對零、第

二回戦は郡山と六對四でいづれも敗戦した

平町人事

回出

△南町 宮崎義雄氏二女盟子

△久保町二 今井常治氏 四男義晴

△久保町二 國井字一氏長 男勇

△回婚 姻

△舊城跡 根本徳太郎氏(五九) 双葉郡新山町廣町渡邊(四八)

△回死 亡

△南町一 高橋隆一(二ツ)

看護婦急派

求めに應じ

平町南町

平看護婦會

電話三〇七

懐しい母親の 行方を尋ねて

十年間涙の苦勞に泣く

美人・平署に出頭

本廿七日午前十時頃平署人事相談所に齡若い美人が出頭十年前家出した母の住所を知りたいと願ひ出たので係の小林警部補が事情を尋ねた處同女は茨城縣生れ目下東京市豊島區池袋町二丁目一五六に

美容院を經營する石川キヨ(ニ)さんで同女が十四才の時實母スイさんは夫庄三郎の身持が悪く其日の食にも窮する悲惨な有様に夫の將來を見限りキヨさんを殘して家出したのでキヨさんは他家に奉公に出て涙の生活を送り其の効ひあつて現在は

同情して 田島氏を本日呼出したが固く口止めされたとして語らぬので小林警部補が懇々とキヨさんの心情を説き聞かせた結果漸く現在は東京市豊島區池袋町二丁目一五六に

相抱いて

縊首を圖る

許されぬ二人

逃避行の末に

勿來町字窪田生れ青天目ミドリ(ニ)は東京市豊島區西巢鴨町岡商店小鉢龜治方に女中奉公中同家店主山形縣生れ佐竹正夫(ニ)と戀仲となつたが家庭の事情で許されぬのを悲感し本月廿二日兩名手を携へて出奔栃木縣鬼怒川温泉に二泊の上死に場所を尋ね茨城縣多賀郡大津海岸八勝園に投宿し廿五日夜同旅館座敷に細紐を吊り相抱いて縊死せんとし居たのを家人に發見され廿六日親元へ引渡された

回春園で

芽どす戀

病勢の昂進に

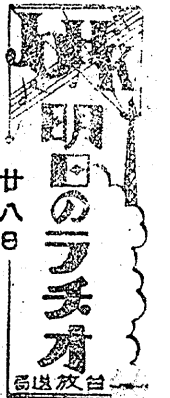
同情して獨心中

下小川村大字柴原農要助長女高木政子(ニ)は最近看護婦として茨城縣水戸市昭和看護婦會に勤めて居たが廿五日午後十時頃下宿の自室

銃器室は

九月中旬竣工

平青年學校の事務室兼銃器



今晩の部
後六、〇〇 子供の時間
傳説物語「犬鳴山由來」上
田治朗他
後六、二五 青年の時間
「帆船で世界を一週した話」小關三平
後七、三〇 趣味講座「洒落と口合ひ」寺田四郎
後八、〇〇 長唄「松の翁」

好間消防

組頭更迭

好間村消防組頭叶多清氏辭職に伴ふ後任組頭は本日渡邊清氏に任命された因に叶多氏は大正十二年三月就任以來十二年五ヶ月の永年に亘つて勤績し井上平組頭に次ぐ郡下消防界の元老であり功績章を授與された事や表彰も數回に及んで居る、後任の渡邊氏は元同村小學校長現に行政區長の職にあり大いに今後の活動を期待されて居る

磐炭に武德殿建設

落成祝賀の武道大會

内郷村磐城炭礦武德分會は同村高坂グラウンド地内に工費三千圓で武德殿の建設工事に着手したが同武德殿は九月下旬迄に竣工十月上旬落成披露式を兼ねて郡下武術大會を開催すると

基督教の

特別講演

來月一日に

平バプテリスト教會の基督教秋季特別講演會は日本バプテリスト東部組合主事時田信夫氏外二氏を招聘して左記の如く開催されるが一般來聽を觀迎すると
△九月一日午後七時半「未定」時田信夫△九月七日午後七時半「愛は權を

尼子自動車御招待抽籤券當選發表

左ノ番號當選致候間御當選の方は券御持参の上御招待日の午前八時迄に當商會車庫へ御參集被下候(時間勵行) 晴雨にか、ワラズ

6	52	9	No. 89
4	44	2155
3	103	5824
9	19	1291
16	54	536
12	16	12101
9	75	586
1	95	369
3	18	1014
			932
			988
			357
			127
			1713
			1245
			254

- 前六、三〇 英語會話講座
- 前七、〇〇 朝の代義「孟
- 子講話」市村瓊次郎
- 前七、四一 六年生のおさ
- らひの時間 理科伊藤博
- 前八、四〇 婦人夏期講習
- 「實用習字」中村春堂
- 前八、三〇 母の時間
- 「暑中休暇を終へて」吉田
- 章信
- 前八、〇〇 教育特別講
- 座「學習心理講話」久保良
- 英
- 後八、〇五 三味線主奏樂
- 柘屋榮藏社中
- 後六、〇〇 子供の時間
- お話と對話「練習船の或
- 非常の昂進して居るのを同
- 情の餘り獨り心中したので
- ある
- 四倉選舉肅正 四倉
- 町は來る廿九日午前十時か
- ら同町諏訪神社で有權者の
- 選舉肅正祈願祭を執行する
- が九月二日は午前七時から
- 四倉座で講演會を開き投票
- 當日は全町に國旗を掲揚す
- ると
- 湯治に行くと 郡山
- 市長吉町四〇木戸久助方同
- 居人須釜ヨネ(ニ)は本年四
- 月湯治に行くと稱して行衛
- を晦したが最近湯に當る平
- 町片倉製糸工場火災須釜重
- 吉方に居ることを聞き込み
- 本日平署に捜査方願ひ出た



明治太平記

(上巻及上巻)

(作) 寺島雄史

第二百十回

浪々の身 (三)

「あれが？」

「あのひと、もとは六等出仕だったのよ」

「へえ、あれがかい……おや、あれは人身賣買業の井手六三郎ぢやねえか」

「あら、あんたもあのひとを知つて？」

「知らずにどうしよう……さうだ、彼奴をつかまへて助太刀屋のことをきいてみよう、なアおとわさんひよつとして彼奴知つてやがるかしらねえ」

芳三郎はづか／＼とかけていつてよろめきながら歩いていく浮浪人の肩を叩いた。

「おい、井手の旦那」
浮浪人はぎよつとして振かへつた。

「井手さん、ひさしぶりぢやねえか」
「誰だ、君は？」

「あれ／＼の浴衣を着て細紐をくるくる巻にした開化男のむかしとは雲泥のちがひある井手だが、その態度物腰は、人身賣買業者として政府當路の大官や外國使節のあひだに調法がられたころにかはりはしないや」

「わつしを忘れましたか、井手さん、西洋髪鏡所の芳三郎です」
「おう三樂か、君は？……いや、これは飛んだみすぼらしい姿をみせてしまったなア」



因縁ですのねえ
「いやまつたく……しかし何です、今をときめく大英帝國の公使パークス閣下のらしやめんとあらうあんなが、どうして……」
「お拂ひ願よオホ、……」
「へえ、ふところ呑んでをつた懐剣がめつかといふ寸法かね」
「い、え、らしやめんの資格なしよ」
「ちや斷念したのか、あのことを……」
「時節が來ないわ……、それよりかあんたも結構きた

「いや、わつしこそこの哀れな風采格好で……」
そこへおとわもやつて來た。
「井手さん」
「おや……」
「いつたきり井手はいよいよ氣まり悪げにする。東京の眞中、日本橋の上でお目にかゝれるな死か

ならしくなつたのねえ」
「いやはや、これは……むかしの井手の面影なしさ、ハ、ハ、ハ」
「どうしてまた？」
これは芳三郎の質問
「さればさ……人身賣買業が當路の大官のあひだに調法がられ、やがてはひとかどの官員さん、出世がで

るとおもつてをつた矢先、運わるく人ごろしの……」
「誰をころしましたか？」
「廣澤參議閣下を暗殺したのはこの井手六三郎だといふので引致され其のまゝ未決へ放り込まれ、長いあひだひでえ目にあつたよ」
「へえ」
「やつと嫌疑がはれてつい先日出獄はしたが西を向いても東を見ても振むいてく

歯科口腔外科

レントゲン科

院長 東京歯科 醫學士 原 精一
東京歯科 醫學士 柏倉武男

平町土橋通り
電話三一三番

原齒科醫院

外科 專門

花柳病科 專門

木村外科醫院

自炊入院の便あり
電話三〇九番
平町六丁目橋際

耳鼻咽喉科 專門

平田町 (電話六九一番)

山内醫院

病室完備
自炊便有
醫學士 山内亨 啓

外科 X光線科

性病科

外科

平町田町

安齊外科醫院

電話四七五番

内科 一般

醫學博士 難波 陸

看護婦募集
平町大町新川端
電話五〇〇二

波

吉田眼科病院

平町屋町電話六八番
醫學士 吉田久雄

磐城共濟病院

(福島縣平町) 電話六四一番

内 科	院長 石山謙郎 (電話六四一番)
小 兒 科	部長 藤 尚 輔
婦 産 科	部長 五十嵐雄二 (電話三七〇番)
外 科	部長 大 町 久 藏
耳 鼻 咽 喉 科	部長 大 町 久 藏
皮膚泌尿器病科	部長 前 澤 正
花柳病科	部長 前 澤 正 (電話二七二番)
X線科	部長 石山謙郎
藥物療科	部長 石山謙郎

◎病室完備 入院隨意